

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属泉北幼稚園

1－1. 教育方針

○ゆとりある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは、充実した設備と、情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にした教育を目指しています。

1－2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人の資質や指導力の向上をめざすとともに、地域の幼稚園としての役割と使命を持つ。
 - ① 定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
 - ② 研修への参加や年度末に自己評価をおこなうなど、教員の資質の向上を目指す。
- 2 特色ある教育活動を展開し、保育内容の充実、資質向上を目指す。
 - ① 園の独自性、特色を生かした教育活動の展開に努める
 - ② 大学と連携した学びと保育内容の充実を目指す
- 3 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
 - ① 園児の健康観察及び予防に努める
 - ② 園全体における安全対策・感染症対策の徹底
 - ③ 園児・保護者・地域の方向けの講習会の開催
- 4 地域の子育て支援拠点の充実への取り組み
 - ① おやこ教室の積極的PRに努め、園庭開放に来た保護者への相談・支援を積極的に行う。
 - ② 子育て支援の拠点として、地域との連携に努める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1 ① 定期的な会議	A	子どもの姿や保育内容を共有・検討し、保育の質の向上に努めた。
② 研修や自己評価による教員の資質向上	A	研修参加や、附属 4 園の研究発表による学びの機会を多く作った。また、年度末に自己評価を行い、保育を振り返ることができた。
2 ① 特色ある教育活動の展開	B	自然豊かな環境を生かした栽培・飼育活動や食育活動を行った。縦割り保育による環境づくりと保護者の理解促進に努めた。
② 大学と連携した学び	A	大阪芸術大学の専門教員による音楽・絵画・体育指導、柔道、お茶、作陶教室など質の高い学びを展開した。 iPad 教室など現代の教育ニーズに応じた取り組みを進めた。
3 ① 園児の健康観察	A	健康観察や保育中の様子の把握に努め、保護者へ速やかに伝えた。
② 感染症対策・安全対策	A	・手洗いの推奨と職員室、保育室などに消毒液の設置 ・清掃の方による階段の手すり、扉などの随時消毒 ・定期的な遊具や玩具、机やいす等の消毒・遊具の安全点検 ・常駐警備員の配置と防犯カメラの設置・車門ネットの設置
③ 講習会の開催	A	警察や地域の方の協力による「交通安全指導教室」や、園医による「歯科講習会」を行い、安全・健康管理対策を積極的に進めた。
4 ① 子育て支援	A	園庭・保育室開放や未就園児向けおやこ教室を開催し、案内配布や HP 掲載、申込 QR コードの活用により参加しやすい環境を整え、参加者と園児・保育者との交流を図った。
② 地域との連携	A	地域活動やイベントへの応募や展示など、積極的に取り組んだ。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	・自己点検、自己評価の実施で保育の振り返りができた。 ・外部研修に積極的に参加し、教員の「学び」の機会を多く持つことができた。 ・必要な感染対策は継続して行い、健康観察、感染症対策に努めた。 ・登降園時に園児の様子を直接保護者に伝え、安心につながるよう努めた。 ・自然環境を生かした栽培や収穫等の食育活動や園庭づくりに、園児と職員が共に取り組んだ。 ・異年齢保育の充実を図り、保護者の理解と安心を得られるように努めた。 ・大学の専門教員による質の高い学びと充実した保育内容に努めることができた。 ・クラスだよりの発行、SNS や HP での写真掲載により行事や園生活の様子を知らせた。 ・地域イベントへの参加や夏祭りの開催、園庭開放の充実化など通し、地域の連携に努めた。

◎「3. 4. 」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	毎月の避難訓練による緊急時の対処法、AEDの使用法の確認など、教員全員が共通認識を持つよう努める。 園全体の環境整備・安全点検をしっかりと行なっていく。
充実した保育の展開	引き続き、教員の資質や指導力の向上、充実した保育内容と質の高い学びを目指し努力する。 栽培や飼育など園児の興味・関心が広がる環境作りに努める。 園児と保護者一人一人と丁寧にに関わり、安心してのびのびと過ごせる環境づくりに努める。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 先生方から多くのことを教わり、丁寧に見ていただいたことを痛感している。
- 人数が少なく合同保育となることで、できることが制限されるのは残念。
- 他園だと見落とされそうな所にも気づいてもらえ、きめ細やかな対応に安心できる。
- お遊戯では2学年が一緒に躍ることで、仲間意識が芽生え、関係が深まった。
- 年長が年中の面倒を見るなどの相互作用があり、成長を感じられる。
- 発達段階に応じた経験ができるよう、活動ごとに試行錯誤しながら対応していきたい。
- 人間関係につまずかないためにも、大人数の中でも対応できる力を身につけさせたい。
- 人として信頼関係の基盤を育てる時期であり、小学校との交流の機会は安心材料になる。
- 自然、野菜、動物など環境が素晴らしく、みんなが大事にしている。
- 安定した人間関係で自己肯定感を伸ばす逞しさと自信を育て、身につけさせてもらっている。

7. 公開保育について

実施日時	令和7年11月18日（火） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属泉北幼稚園 保育室
保育者	もも組（年少）担当教諭
テーマ	作ったもので遊ぼう
指導助言者	大阪芸術大学芸術学部 初等芸術教育学科 特任教授
参加者	幼稚園園長・副園長・主任・教諭、保護者、大学院生
総評	子ども達が楽しみにワクワクしていることが伝わりました。長い時間ひとつのことに集中するのは難しい年齢ですが、朝の活動から製作、体を動かす表現遊びと、切り換えながら楽しく取り組めるよう工夫がありました。製作の後子ども達同士でやりとりしながら待っている姿があり、子ども達の成長と友人関係の広がりを感じました。困ったときには担任が気づいてくれるので、自分の思いを述べられるという担任との絆を感じました。具体的にほめながら進めていたことも少人数の良さが出ていました。丁寧な保育で子どもたちとの信頼関係が感じられた楽しい保育でした。とても素直でかわいらしく、3歳児の良さが見られた保育だったと思います。